



月刊宮司プレス 第二百三十七号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和八年 一月二十三日

◇宮司の柴田です。新春のおよろこびを申し上げます。今年最初の宮司プレスの発行です。

今年も、宮司プレスを御愛顧たまわりますようお願い申し上げます。

お願い申し上げます。 さて、毎年干支にまつ

わる言葉の色紙に思いを込め浄書、さらに、

印刷したものをお配りしています。今年も、

三枚ほど作成しました。

◇一枚目は、「**馬**」です。乗馬の経験がおあ

りの方は、御存知でしょうが、馬は左から乗る

のが鉄則です。右から乗ろうとすると、**鑑**の

足の位置が異なり、上手く乗れないそうです。

実は、左から乗ると、絶対に落馬しないという

言い伝えがあるのです。馬は、引つ張ったり、

あるいは、乗馬して、人が目的地に連れていく

のです。しかし、この「ひだりうま」は、馬が、

私共の生活に欠かせない、「お金」や、商売に欠

かせない「お客さん」、人生において大切な

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和八年 一月二十三日

「幸運」を引つ張り込んでくれるという、大変

縁起の良い字なのです。しかも、「右にでるもの

がない」、あるいは、「左うちわ」にもつなが

り、「開運招福」の象徴ともいえるのです。

◇二枚目は、「天敬仁篤」です。「篤」に「馬」

の字があります。作家の夏目漱石さんは、晩年

に「則天去私」という言葉をのこされました。

大自然に身を委ねて、私利私欲をかなぐり捨て

て生きていくという意味です。まさに「天敬」

こそ「則天」です。「仁篤」の「仁」は、孔子が

示された、人としての理想的な姿です。私利私

欲を捨てるという「克己」を大切に、利他とい

う思いやりの「恕」を忘れず、自分に忠実に「忠」、他人をあざむかない「信」、これこそが、「仁篤」でありませぬ。そのような生活を心掛けたいと思

◇三枚目は、「日新日進日炳」です。今年の

「丙午」の「丙」の語源は、「炳」なのです。

物事が極限までに発展して、姿形が、明ら

かになつていくという状態を表しています。

日々の暮らしは、良いこともあれば悪い出来事

もあり、まさしく、「トライ アンド エラー」

の繰り返しです。しかしながら、良いことは、

これからの活力にして、悪い出来事は、心の糧

にして、心機一転、新たなスタートを心掛ける、

まさしく「日新」です。そして、「日進」、希望

を見失うことなく、前向きに進むのです。その

毎日毎日の営みが、姿形が明らかになって、大

願成就に近づくと、まさに、「日炳」でありたいも

のです。

◇ご希望であれば、御芳名を墨書して、差し上

げています。遠慮なくお申し付け下さいませ。

◇今年一年、「**馬**」の開運招福にあやかりな

がら、「天敬仁篤」の生き方で、「日新日進日炳」、日々新しく日々前向きに、日々の暮らしが、明るく豊かな姿形となつてあらわれますように、お祈り申し上げます。

◇一月祭典行事報告

▼歳旦祭 *一月一日

◆本宮・田の首八幡宮・貴布禰神社・福浦
金刀比羅宮

※彦島八幡宮歳旦祭



※田の首八幡宮歳旦祭



▼元始祭 *一月三日



▼会社関係団体参拝 *一月四日

◆下関市倫理法人会 *一月七日

◆下関市中央倫理法人会 *一月八日

◆下関市交通安全協会 *一月八日

◆山銀はってんクラブ *一月十四日

◆彦島八幡宮早起会 *一月二十日

▼七草粥会 *一月七日



▼六連島八幡宮歳旦祭、戸別宅神祭

*一月十三日

▼月次祭、朝粥会 *一月十五日

▼楼門にお多福門設置 *一月十六日



▼田の首八幡宮どんど焼 *一月十七日

▼どんど焼 *一月十八日



◇一月の宮司動静

◆神社関係団体

▼敬神婦人会七草粥接待奉仕、新年参拝 *一月七日

▼早起会新年会 *一月二十日

▼維蘇志会どんど焼奉仕 *一月十八日



◆神社庁関係

▼正副庁長会議 *一月二十六日

▼神社総代会役員会 *全右

▼下関支部総会 *一月二十九日

◆自治会、学校関係、人権相談員、その他

▼教誨師 ※美祢社旗復帰促進センター

■入所前指導 *一月十六日

▼人権擁護委員

■デートDV人権教室

※下関総合支援学校 *一月十九日

※下関短期大学付属高校 *一月二十七日

▼自治会、学校関係、その他

■あいさつ運動 *一月九日

■社会福祉法人松美会評議員会

*一月十六日

■迫町自治会役員会 *一月十八日

■西山小三年生発表会 *一月二十七日